

2025 年度（令和 7 年） 事業報告
及び

2026 年度（令和 8 年） 事業計画

認定 NPO 法人プール・ボランティア

2025 年度（令和 7 年）事業報告
及び 2026 年度（令和 8 年）事業計画

認定 NPO 法人プール・ボランティア
（以下「PV」と省略する。）

1. 事業報告期間	2025 年1月1日 ～ 2025 年 12 月 31 日
事業計画期間	2026 年1月1日 ～ 2026 年 12 月 31 日

2. 2025年度活動実績(2025年12月末現在)

■ボランティア会員

のべボランティア会員入水数	2,322名
ボランティア活動実人数	71名（1回以上入水した実人数）
現ボランティア会員数	140名（2025年度の最終会員番号 PV-1436）
新規ボランティア入会数	8名

■利用会員

のべ利用会員入水者数	1,957名
現利用会員数	53名（法人会員を含む。）

■PV応援団（寄附会員）	99名
--------------	-----

■寄付者	のべ322名（法人及び大阪マラソンの寄付者も含む。）
------	----------------------------

■会計実績

経常収益	26,961,200 円
経常費用	26,868,046 円
負債総額	63,207,041円
消費税納税額	0円（消費税免税事業者のため）

3. 2025年度の活動総括

今年度もすごく大変で、いろいろとあったけれど、とても充実した楽しい一年だった。

この26年間、「毎日が学園祭！」っていう日々が続いている。

今年で設立27年目を迎える。すげえ！よく続いたもんだと感心する。

日本で最も古いスポーツNPO、事業型NPOの一つとして誇りをもって、これからも頑張ろう！

2021年の末に永年の功績が認められて東京の皇居の宮殿(波の間)で、天皇・皇后両陛下から拝謁を賜ったことが小さなNPOとしての大きな自信になっている。

そして、2025年3月に第6回「SDGs岩佐賞」という大きな大きな賞をいただいた。

賞金の500万円は、翌日に借金の返済で消えました(泣)

4.【嬉しいニュースの報告】

- ① PV819 狩野秦さん、ダブル超殿堂入り(2,000回入水/初)

PV244 武田賀代さん、超殿堂入り(1,000回入水/9人目)

頭が下がります。ありがとう。感謝。

狩野さんの記録は、これから先、抜かれることはないだろうなあ。

- ② 大阪マラソン2025の寄付先団体として9年連続で採択されたこと。

そして、給水ボランティアに80名が参加したこと。

この報告書を書いているときには、大阪マラソンは終わっているのだけど、大阪マラソン2026では、給水ボランティアが130名参加した。これまたすげえええ！

- ③ 第6回 岩佐賞受賞（賞金500万円）

この賞は、民間の賞としては最も有名な賞で、誰もがあこがれる大きな賞です。

受賞は、ほとんど奇跡です。報われた思いがするなあ。

- ④ 「PV in ラクタブドーム」(4月)

今年も西淀子どもセンターの子どもたちなどを招待した。このような大きなプールを貸し切って行うイベントは準備が大変だけれど、子どもたちがみんな生き生きとして喜んでくれるので、とてもやりがいがあって楽しい。

毎年継続して開催しているので、この日を楽しみに待っている子どもがたくさんいるそうだ。

今回は、飛び込み事故があり、頭部を5針も縫った子どもがいた。

気をつけないと！

- ⑤ 「オールPV オンライン会議」(7月)

年に一回、全国のPV姉妹校が集まります。すごく熱い会議だった。

(和歌山、新潟、京都、北海道、愛媛、ロサンゼルス)

- ⑥ 落水体験出前授業(十三小学校 7月、茨田南小学校 9月)

この出前授業は完全な無償奉仕に加えて体力的にかなりしんどい。だけど、大切なことだな。

すべての小学校で実施すべきです。

- ⑦ 京セラドームで野球観戦(JPモルガン様からの招待)(9月)

毎年、ご招待していただいています。そして、みんなとても楽しみにしています。

- ⑧ 令和7年度 キラッと輝く！OSAKA大阪市民活動グランプリ

最優秀グランプリを受賞(10月)(賞金10万円)

賞をもらっておいて、こういうことを言うのもなんだけど、この賞、ほんまにアカンなあ。

行政の主催する賞は、ほんまにやる気が感じられない。二度と応募したくない。

でも、副賞として、大阪市立のすべての市民プール24か所に、「ひと肌ぬいでえな！」の大ポスターとチラシを2枚、一年間、配架できることになった。

この副賞を狙って応募したのです。

⑨ 住友生命いずみホール「夢コンサート」(10月)

毎回、ご招待していただき感謝です。声を出しても、動き回ってもいいコンサートなので、気を使わなくていいから安心。ホスピタリティが最高の場です。

⑩ 「PV設立26周年記念パーティー 兼 親睦忘年会」(錦城閣)(12月7日)

温かくいいパーティーだった。

みんなの3分間スピーチが、毎回楽しい。

⑪ 阪急阪神百貨店のH2Oサンタさんによる「NPOフェスティバル」に今年も呼ばれて参加したこと。

8月と2月の2回。阪急阪神さんという企業の社会貢献の努力には頭が下がる。これからもできる限り協力していきたい。

⑫ 5月のマスタース短水路大会では、ボランティアも障害児たちも一緒になって試合に出場した。

(今回は、メインプールが工事のため使用できず、一部のみの参加になりました。)

こういうようなことが当たり前になっていけばいいなと強く思う。

大会の主催者の人たちにも理解が深まってきた。

「継続は、チカラなり」だな。障害者も健常者も一緒に泳ごうよ。

⑬ 今年も、大阪医科薬科大学から依頼を受け、生徒さんを「社会勉強」として体験的にボランティア活動に参加してもらっている。これも、いいことだと思う。「こういう世界があるんだ。」ということを経験関係者や大学生にも知ってもらいたい機会だと考えている。(8月)

⑭ 今年も、理事長の岡崎が東京の駒澤大学で「NPOについて」90分間、オンラインで講演したこと。すごくいい講演だったと喜んでもらえた。講師料は、5万円もいただいた。(10月)

⑮ 障害者水泳の指導者用の教本を出版するお金がないので、インターネット上の「note」に掲載した。たくさんの指導者に読んでほしい。

⑯ なんと上海から視察団が7名もPV事務所に来て、いろいろと障害者水泳のことについて、意見を交換した。でも、よくわからなかったなあ。お互いに！

■その他

2022年12月に、NPO法人プール・ボランティア和歌山が誕生した。(理事長/中野朝子)

2023年7月に、NPO法人プール・ボランティア新潟が誕生した。(理事長/諸橋綾子)

2023年8月に、プール・ボランティア北海道(任意団体)が誕生した。(代表/間地伸吾)

2024年3月に、NPO法人プール・ボランティア京都(理事長/岡崎聡)が誕生した。

そして、今後、NPO法人プール・ボランティア愛媛、

NPO法人プール・ボランティア in ロサンゼルスが誕生する予定である。

同じ志を持ったNPOの姉妹校が次々と誕生することについて、すごく嬉しく思っている。

ありがたい話だな。

障害者は日本全国にいるのだから、各都道府県に一つ、プール・ボランティアが設立されて日本中の障害者が健常者と同じようにプールを楽しめるようになったらどんなに素晴らしいだろう。

そのためにも、もっともっと頑張らないと！

【悲しいニュースの報告】

借金は、6468万円から6320万円に減った。

喜んでいいのか、情けないのか！どないすんねん！（泣）

悲しいニュースは、これだけです。

4. 2026年度へ向けての活動計画

【2026年度の六大目標】

- ① 新ボランティア会員の入会 30名（夢やな！）
- ② 新利用会員の入会 10名（待機児童にはさせないぞ！）
- ③ 大阪マラソン2027に10回目の採択をされて、寄付金をガッポリもらうこと。
- ④ 新しい次世代管理システムの導入。（構想だけに終わりそう。資金がない。）
- ⑤ 東京になんとか進出する。（それにはまず大阪を安定させないと）
- ⑥ 障害者 水泳指導者養成研修(体験型)の教材を製本にすること。

※昨年度とほとんど同じ内容やんけ！全然、達成できていないということやな。（泣）

5. 8つの事業ごとの報告とそれぞれの来年度の目標

(1)障害者・児の支援事業

今年度も質的に素晴らしいサポートができて、とても満足している。指導能力の高いボランティア会員の増加が活動内容の充実につながっている。

来年度も、質の高いボランティアを一人でも多く獲得したい。

また、コロナの影響で利用会員が一時は減少したけれど、最近では利用会員が増えてきている傾向にある。入会させてあげたいけれど、それを受け止められるボランティアの数が足りない。

この障害者支援事業がPVの事業収入の本丸なのだから、安定した事業運営のためにはさらに充実していく必要がある。

(2)プール・リハビリ事業

来年度も高齢者に限らず、肢体不自由者のためのいいリハビリに取り組んでいきたい。この事業は、手間と時間と費用がかかるが頑張りたい。平日の昼間のボランティアをもっと確保する必要がある。

そして、この事業は、まだまだ伸びると思っている。

「リハビリの効果は、楽しい水泳練習の延長線上にある。」

(3)プール・オンブズマン事業

今年度も、いろいろな提言活動をした。指定管理者や行政の反応はとても鈍いものがあるが、地道に提言活動を継続することが大事なことだと考えている。

来年度も、各自治体やプールに対して積極的に働きかけ、障害者を取り巻くプール環境の改善に少しでも努めたい。

この 26 年間の活動で、近畿圏のプールはすごく良くなってきていると感じる。指定管理者や行政にも少しずつ理解をしていただけるようになってきた。ただし、ほんまに少しずつ……。

「目洗いシャワーの撤廃運動」は、大阪維新の会の協力を得て、2022 年の3月の府議会で審議され、否決された。なんでやねん！行政の壁は厚いなあ。

「障害者用更衣室」の表記が「多目的更衣室」になってきて、誰でも当たり前のように使っているようになっているプールがある。

「多目的」の意味を間違えて解釈している。おかしいことに、気づいて欲しい！

現在、「フランス式更衣室」のモデルとなるプールを探している。

(4)障害者用水着等企画開発事業

身体障害者の場合、変形した身体にフィットする水着が市販の水着では手に入らない。そこで、水着メーカーのミズノさんをお願いして個別に作ってもらう橋渡しの活動をしている。

この事業も収益性がなく派手な宣伝効果もないけれど、活動を継続することが大事なことである。

日本で初めての「プール専用車イス～サンダーバード 1 号」と「ベッド型プール専用車イス～サンダーバード 2 号」と重度身体障害者用浮き具「うきうきくん」は素晴らしい製品だと自慢したい。

東京のツカサドルフィン(株)のカタログに大きく掲載されている。

これらを全国に売って、売って、売りまくろうと考えている。少しずつではあるけれど、確実に売れてきている。この販売利益にPVの経済的な生き残る活路を見出していければと期待したい。

収益アップに貢献できるかなあ。

(5)障害者対応研修普及事業

一昨年までは、コロナでひと休み状態だったけれど、これからも大きく発展していく事業であるし、今後もチカラを注ぎたい事業である。

2025 年も、たくさんの会社からの依頼があった。

指定管理者制度は良い面も多いが、どの指定管理者も障害者対応については、経験と知識がなさすぎると感じる。市民プールの「市民」の中には、障害者も性的少数者も含まれているはず。

もっともっと勉強してもらいたい。でないと、公営プールの運営など、できまへんで！

これからも、どんどんプールの運営側を啓発していく！

(6)PVマスターズチーム運営事業

会員間の親睦の意味もあるが、試合会場に掲示するPVの大幅増や参加人数の多さで、PVの知名度をさらにアップさせたい。そして、ボランティアの募集や啓発活動につないでいきたい。

リレーチームが増えてきたし、障害児だけのリレーチームも組みたいので、今までの「NPO-PV」チー

ムに加えて「NPO－PV＋(プラス)」を作った。

一般のマスターズ大会に障害児だけでリレーチームを作って出場するなんて素晴らしいことじゃないか！

プール・ボランティアでは、10 年ほど前に日本で初めて障害児だけでリレーチームを作って完泳できた実績がある。

(7)ヘルプマーク・スイムキャップ普及事業

もうすでに 4,000 枚以上は配布した。無償で、である。

この事業は大赤字だと予想したのだけど、ヘルプマーク・スイムキャップそのものは助成金で購入できているし予想外に寄附金が多く集まっている。

だから、少なくともこの事業は赤字ではない。

(8)障害者水泳指導者養成研修(体験型)

この事業はPVの 8 つ目の事業として、2022 年 7 月から実施している。これが、すごく好評。

全国から受講に来られる。この研修を受講した人たちが、それぞれの職場や地域で活動しているのを聞くととても嬉しい。ここから和歌山や新潟のように NPO を設立した人もいる。

ありがたいことです。

この事業は、今後も大きく発展すると確信している。

6. 各会員についての報告と来年度への課題

(利用会員)

この一年は利用会員の入会希望者が少しずつ増えてきた。でも、ボランティアが不足しているので積極的な受け入れができない。

ところで、業者と間違えているような利用会員は入会させるべきではない。PVの基本理念に賛同していることは入会の絶対条件である。

これからも、年齢、性別、障害の内容、程度を問わず、どんどん受け入れていきたい。

ボランティアさえ豊富にいればなあ……。それが悔しい。

(ボランティア会員)

ボランティア会員は、まだまだ不足である。質の良いボランティアの確保こそがPVの生命線であるという認識は設立以来 26 年間ずっと不変である。

年々応募してくるボランティア希望者の質的レベルが高くなってきていると同時に、事務局からボランティアに求めるレベルも高くなってきている。

入会したボランティア会員で1年後も継続して活動しているボランティアは、それほど多くない。

指導能力のないボランティアはPVでは生き残れない。

ボランティア会員の獲得については自然の増加に任せてはいけない。高校水泳部、大学、専門学校、マスコミ、そして企業などに積極的にアタックして、一人でも多くの「泳げるボランティア」を獲得すべ

きである。

日本フィランソロピー協会の「ボランティアウェブ」から、もっと参加者が増えればいいのになあ。

大阪の地下鉄の車内広告を検討しているが、お金がないので夢だけで終わっている。

ところで、ボランティア同志はとても仲がいいし、熱心である。PVの財産はこういう仲のいい素晴らしいボランティアさんたちであり、PVの事業は彼らによって支えられているのである。

ボランティア同志の結婚は、12 組のままである。早く 13 組目が誕生しないかなあ。

ボランティアさんを動かしているものは、何だろうか？

彼らには、1 回 500 円の交通費しか支給していないのであるから「お金」が目当てでないことは明白である。

では、何か！

PVの職員は常にそのことを考える必要がある。

ボランティアに支払う謝礼や交通費を二倍にしても三倍にしても、質のいいボランティアが集まるわけではけっしてない。

（PV 応援団と寄附金）

気軽に寄付行為ができる「PV応援団」が確実に成果をあげている。たくさんの金銭的支援者を集めることも大事であるが、PVの活動趣旨を理解し真に協力者となっていたただける方だけを対象とすべきだという方針に変わりはない。お金だけもらってもありがたくはないし、支援される側のチカラにはならないからである。応援団員 100 名まで、あと少し！

応援団以外の寄付金も、少しずつではあるけれど着実に増えてきている。

それと、最近ではヘルプマーク・スイムキャップの寄附が驚くほど増えている。ありがたい。

7. 事故報告

PV事業において「安全」が最優先されることは当然のことである。事業収益やボランティア会員の安易な穴埋めの配置を「安全」に優先させてはならない。

常に、職員が肝に銘じておくべき大切なことである。

今年度も小さなケガや事故は日常的に発生したものの、この事業報告に記載しなければならない救急車を要請するような大きな事故は一つもなかったことにホッとしている。

「いいボランティアによるマンツーマン体制」という質の高いサポートをしている限りにおいては、そうそう事故の発生などはないと書きたいところだけれど、溺水事故を 100 パーセント未然に防ぐなんてことは神様でなければできない芸当である。

私たちは、これからも常に事故のリスクを負いながら活動していることを忘れてはならない。

特に、子どもの潜らせ方や活動中のテンカン発作の応急手当等については「Pサイト」(会員だけが見ることのできるサイト)に掲載するなどして会員にしっかりと伝達していく。

ところで、2022 年度に扇町プールのトイレでPVの子どもへの性的虐待があったことが判明した。

発覚したのは、事件から 5 年後である。

ここでは詳しく書けないけれど、腹が立つなんてもんじゃない！

8. 今後の展望

(1) 今後の展望

PV活動をひとつのコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスとして捉えるならば、われわれは常に変化する市場の動きに敏感でなければならない。自らの信念・使命(ミッション)を堅持しつつ、社会の動きに合わせた柔軟で自然な事業展開こそが必要である。

「自由」「ユニーク」「今までにない切り口」「小回りがきく」「楽しい」「感動」「充実感、満足感がある」「心意気、男気」「遊び心」「専門性」「決断が早い」「おもしろい」などのNPOの特性を常に意識し、お役所的、保身的な運営にならないように注意すべきである。

職員にとっても会員にとっても魅力的な組織でなければPVは成長できないし、強烈な個性がなければNPOとしての存在意義がないことも自覚すべきである。

ただ、冷静に見てもPV事業が今後大きく失速するような要因は今のところ見当たらない。

全国的に見ても、同様な活動をしている団体は皆無であり(オンリーワン)、社会的には追い風状態で、新型コロナのような不測の大きなアクシデントがない限り、このまま少しずつではあるが順調に発展すると予測している。

これからも、障害者の6K(暗い、怖い、汚い、臭い、気持ち悪い、関わりたくない)のイメージを、少しでも払拭して、障害者も、スマイル、スマート、セクシーに泳ぐぞ。(PVの3S)

(2) 全国展開と事業規模の最適化の問題

毎年、全国からの問い合わせが多いが、特に首都圏からの問い合わせが群を抜いて多い。関東でPV事業を展開すれば大当たりすると思うのだが、今のところは、大阪だけで手一杯である。

戦略的には大阪で基盤を安定させるだけの収入をしっかりと確保できるようになるまで、地域的な拡大は目指さないほうが良いと考えている。

が、将来的には、関東圏にはぜひ、進出したい。

ところで、ドラッガーが言うように、事業の規模を考えることはとても重要である。

どれだけコンピューターに任せたとしても、最後のマッチング(利用会員とボランティア会員の相性などを考えて組み合わせること)については職員の手作業と感覚でするしかない。

ここは、コンピューターではできないところである。

職員がすべての利用会員の障害の内容や程度、性格、そして、すべてのボランティア会員の指導能力や個性を把握していなければ、この最終段階の組み合わせはできない。

そうするとPVの二人の職員が展開できる事業の規模は過去の経験から、だいたい年間のべ 4,000名ほどである。

これ以上に事業規模を拡大することは、事業の質を落とし、事故を誘発することになる。

したがって、大阪ではまだ少し余裕がある。(ボランティアさえいればの話ですが・・・)

今後の事業の拡大については、大阪以外の地域において支部ではなく姉妹校など全く独立した組織と連携していくという方向がよいと考えている。

前述したように、各地に「本家」とは別の「姉妹校」が誕生してきている。

全国制覇も、けっして夢やないで。

(3) 別の収入源の模索

現在の事業収入の手段以外に何か別方向からの収入を得る道を模索しなければならない。

それが、業務委託なのか、スポンサー収入なのか、広告収入なのか、講演料なのか、イベント収入なのか、支援費制度とのからみなのか、物品販売なのか、本を出版することによる印税なのか……。

最近、サンダーバード 1 号、2 号や「うきうきくん」が、少しずつ売れてきている。

これが、別の収入源の切り札になるか！ なって欲しいなあ。

この問題を解決しない限り、新職員を採用する財政的な基盤など確保できまへんで！

(4) 行政との連携

マスコミなどで、NPOと行政との連携がどうのこうのと言われているが、現実には行政との連携については、かなり難しいものがある。行政側の熱意と工夫のなさ、コスト感覚のなさ、発想の貧困さ、動きの重さ、手続きのややこしさなどがあり、同一行動がとりにくいからである。

甘い「連携」などという言葉に踊らされないよう慎重に対応する必要がある。

このように書くと行政との連携を嫌っていると勘違いされるようであるがむしろ逆であって、行政との良い連携については切望しているのである。

社会を変える最も効率的な方法が行政と仲良く手を組むことだからである。

なんか一緒にでけへんかなあ。

(5) 指定管理者、民間企業との連携

プールを運営する指定管理者とは上手にギブアンドテイクで連携していく必要がある。プール環境を良い方向に変え得る最も直接的な相手だからである。

顧問契約等を締結しているシンコー、翔成、ホス、宝塚、神奈川県の水泳教室や、日頃から仲のいいミズノやコナミなど、少しずつPVの存在価値を認識してもらえるようになってきた。

障害者対応研修普及事業などを通して、もっと連携を濃くしていきたい。

(6) IT技術のさらなる活用(会員管理システム)

ボランティア会員からの活動エントリーや、利用会員からのお休み連絡、日々のマッチング、交通費や会費などの精算、寄付金の整理、その他の会員管理などをしてくれる「管理システム」の存在は、すこぶる大きい。

職員の仕事が大きく軽減されるからである。

この「PVのオリジナルマッチングシステム」こそが、PVの心臓部であると言って間違いない。でも、どんどん改良を加えていく必要があり、そろそろ7代目のシステムを構築しなければいけない時期がきている。

それにしても、費用が 1000 万円単位でかかる。

お金よりも、こういうシステムを作ってくれる誠実なシステム会社を、誰か紹介してくれええ。

(7) ホームページの重要性とフェイスブック、ツイッター、ユーチューブなどの活用

ホームページは、とても重要と考えている。プール・ボランティアのホームページは、とても見やすく気に入っている。今後も、マメに変更、修正、追加をしていくつもり。

フェイスブックやツイッターやラインのような手段で他人と交流することについては好きではないし抵抗があるが、その大きな効果については認めざるを得ないので、今後も活用していきたい。

そして、今年度もおもしろ動画をユーチューブにいくつか発信した。

(8) 職員の研修、福利厚生

PVの職員は超多忙で、休日はほとんどなく給料も安いうえに、いわゆる「持ち出し」も多い。

その一方で、たくさんのボランティアさんと気持ちのいい付き合いをし、たくさんの障害児に優しく接するためには、ハイレベルの心の余裕や遊び心が必要である。みずみずしい感覚の有無が、直接、事業の良し悪しに響いてくる。したがって職員研修や福利厚生の充実などが重要になってくるのであるが財政的に、そして時間的にあまり大がかりなことはできない。

そこで、安価で短時間で効果的な研修や福利厚生などに、来年度もチカラを入れていくつもりである。

吉本新喜劇を見てバカ笑いをするとか、心ときめく映画を見に行くとか、通天閣に登るとか、美味しいランチを食べに行くとか……いろいろとNPOらしいアイデアで職員の心の水分補給をしていきたい。

それでも、ここ数年は、かなり福利厚生を充実させてきている。

一般的に言って、NPOの職員が過酷な労働条件の下で働いているのは、その仕事に誇りをもち、やりがいがあり、人間関係が良く、楽しいからである。

そのことを十分に認識し、理事長として少しでも快適な職場環境の維持、彼らの生活の安定に努めたいと思っている。

(9) 内部留保金(法人としての貯金)と借金の返済

出費が多くて、収入が少なくて、財政的には真っ赤っか。毎年、同じことを言っているけど、どないしよう。頭が痛い。誰か「打ち出の小槌」をくれへんかなあ。

内部留保金を蓄え、3 ヶ月間はアクシデントがあっても持ちこたえられるような基盤を作っていくという課題は、まだまだ遠い先の話しです。

同時に山ほどある借金も、少しずつ返済していきたい。頑張るぞ！

日本政策金融公庫から1000万円、大阪商工信金から500万円の融資は、10年間で少しずつ返済していく計画です。あと半分や！

しんどいけれど、ニッコリ笑顔で返済しまっせ。

(10) 新職員の採用と後継者問題

NPO法人にとって、事務所、専従職員、パソコンは三種の神器である。

しっかりと地に足をつけた事業運営を考えると、この三つは欠かせない。

そして、PVは常に先駆的でプロフェッショナルでファッショナブルな組織でありたい。

2019 年 1 月に 902 号室から、隣の 901 号室に主たる事務所を移転したことによって、新しい職員やアルバイトが働きやすい環境ができたと思う。

よい人材を採用し次世代に引き継いでいきたい。いわゆる「後継者」問題である。

現岡崎理事長は、もう高齢であり考え方も古くなってきているし、デジタル社会についていけないし、そもそも体力がもうない。ヨボヨボである。

早く彼に戦力外通告をし、引退してもらわない限りPVに未来はない。

だから、今後 10 年以内に新しい理事長を見つけなければならない！

そして、活きのいい新職員を採用しなければならない！

そして、それができるような財政的な基盤を確立しなければならない！

(ムチャクチャ大変やんけ！)

9. 顧問、業務委託関係についての報告 (★ 印は有償)

- ★ 弁護士 …………… (探し中)
- ★ 司法書士、社会保険労務士 …………… 達富慎也(PV-163/正会員)
- ★ 弁理士 …………… 永田特許事務所(PV 応援団)
- ★ 行政書士 …………… 横山佳代(PV-1083/正会員)
- ★ 税理士 …………… 谷本晃税理士事務所(PV応援団)
- ★ 管理システム …………… (探し中)
- ★ ホームページ、IT環境・保守 …………… 株式会社イヴレス
- 理学療法士(PT) …………… 該当者ナシ
- 作業療法士(OT) …………… 該当者ナシ
- 言語聴覚士(ST) …………… 該当者ナシ
- 水難救助関係顧問 …………… 吹田光弘
- ★ 医療顧問団 …………… NPO 法人地域医療連繋団体.Needs
- 技術顧問 …………… 中島彰(PV-1035)
- 保険担当顧問 …………… 佐藤光子(PV-1285)
- ★ 写真担当 …………… 細川匠
- ★ 広報・ファンドレイジング顧問 …………… 石井大輔
- 相談役(牧師) …………… 松本信章(PV-051/正会員)

10. 社員総会の開催状況

2025 年度 PV正会員総会

【日 時】	2025 年(令和 7 年) 3 月 9 日(日) 18:00~19:00
【場 所】	PV事務所
【社員総数】	10 名
【出席者数】	10 名
【内 容】	2024 年度 事業報告の承認 2024 年度 決算報告の承認 2025 年度 事業計画(案)の承認 2025 年度 予算(案)の承認

11. 理事会の開催状況

2025 年度 PV理事会

【日 時】	偶数月の第一日曜日に開催 19:00~20:00
【場 所】	PV事務所
【理事総数】	3 名